

白門みえ

大正時代の母校

中央大学 中央大学 中央大学
三重支部 三重支部 三重支部

http://www.hakumon-mie.jp

創立百二十五周年を迎えて

昭和三六年法卒 支部長 小川 益司

私どもの母校中央大学は明治一八年英吉利法律学校として創設され、今年で一五周年を迎えます。その建学の精神を調べてみると「実地応用の素を養つ」と記してあります。私の在学中は質実剛健を標榜していたが、この校風は今なお受け継がれているのでしようか。

一五周年記念の募金については経済情勢厳しいなか三重支部学員の皆さんからの募金一、〇六〇、〇〇〇円を大学に寄付しました。今年も若干寄付します。誠にありがとうございました。今年の四月名古屋で大学主催の東海支部の懇談会がありました。久野理事長ら大学、学員会幹部らと愛知、静岡、岐阜、三重、名古屋等七支部の支部長幹事長が出席した。大学からは総合大学としてさらに発展させるための基本方針。新宿区市谷町に新キャンパス「ミドルブリッジ」を開設し就職支援対策を強化する。中高一貫教育を実施するための附属中学校を小金井市に開校して大きな話題になっていること等の説明があり、学員からの募金に対して謝意があった。現在募金一〇〇億円の目標額に対して五九億円の募金があるとのこと。

七月には四日市で本大学と父母連絡会との就職懇談会も開かれた。大学から河野光雄総合政策部長らが来られ、大学の概況を説明され、きめ細やかな就職支援体制をしている印象を受けた。最近是新司法試験、公認会計士や公務員試験でも合格者は増加しています。二〇一〇年度の入試志願者数も過去最高です。またあらゆる面で外部からの評価も高くなっているとのこと。

しかし、今や秋の大きなイベントである伊勢路を舞台とする全日本大学駅伝(六位)や箱根駅伝(四位)等スポーツが低迷しているのは、かつての栄光を知る学員にとつては残念なことです。三重支部も先輩らの努力で今年で創立六一周年を迎えており、今年も大学との共催で本学法学部教授折田正樹(元駐英国大使)さんをお招きして公開学術講演会を開催することにしました。

今後とも大学と連携しながら学員が青春の一期学び、同じ価値観を共有したというチームワークを良くして、学員同士の絆をさらに強めていきたいと思ひます。

四半世紀を振り返って

昭和四二年商卒 赤塚 高之

今回、小川支部長の意向により一年振りに「白門みえ」が発刊される運びとなり、あなたも「迷文?」を寄稿するようにとの命を受けました。故速水支部長の頃には教職員の学員が多勢御お見えになり、「白門みえ」の編集は教員の松井秀行氏にお願いしておりました。再び、三重支部の活動や大学の動向を伝えて頂けることは大変喜ばしいことだと思ひます。

私は昭和六十年だと記憶しておりませんが当時、幹事長だった森伸生氏より我が社がレストラン・貸会議室を営んでいたところから、あなたの所で総会も開催できるし、ついでに幹事長も引き受けて頂きたいとの申し出がありました。若輩者でその任にあらずとお断りしておりましたが、うまく乗せられて幹事長をお引受けすることになりました。あれから二十四年、平成二十年度総会における役員改選で現幹事長小林薫氏にバトンタッチすることができ

ました。至らぬ幹事長でしたが皆様の温かいご支援・ご協力のおかげで無事役目を果たすことが出来ました。心から深く感謝申し上げます。

昭和六十年頃はパブル前夜にあたり日本経済も大変活況で不動産・株式も連日のように値上りし、ジャパン・アズナン・パワーンと浮かれていた、今から思えば夢のような時代でした。しかし、平成元年をピークに、今よく言われる失われた二十年の始まりになるうとは、誰も想像さえしなかった事だと思ひます。その間には急激な構造改革や規制緩和により日本の伝統的な互助精神による経済運営が立ち行かなくなり、一億総中流社会と言われたのは昔のことと格差社会が益々広がることになりました。また日本人の美徳とされた倫理・道徳感も失われたような気がしてなりません。さらに日本社会の閉塞感を強くしているのは少子高齢化に加え、人口減少問題であり、国内需要の縮小に繋がるのが強く懸念されております。

かようにこの二十年、社会が大きく変わりましたが、変化の激しい時ほどビジネスチャンスも多く生まれると申します。会社を次の世代に繋げていくためにももう少しの間、頑張つていきたいと考えております。また、人々との絆も大切なことです。近年、序々に総会出席者も増えてきました。学員間の絆を深めて益々盛会となりますよう大いに期待いたしております。

三重県の訴訟を一手に引き受けてみえました。三重県在職中の昭和五七年一〇月司法試験に合格し、昭和六〇年四月三重弁護士会に登録しました(三七期)。現在、総勢一名の弁護士を率いる法律事務所の代表となれたのは、諸先輩のご指導によるものと感謝しております(三名は出向中)。

最近の法曹事情

法科大学院で教えてみて

昭和五二年法卒 弁護士 楠井 嘉行

はじめに
私は、山口和夫三重県生活部長、細野浩三重県防災危機管理副部長、宮武貴久画伯は同期です。

国家公務員上級職試験にも合格しましたが、祖父の強い勧めもあり、大学院修士課程を終了後、三重県に奉職しました。

三重県土木部在職中には、小川益司現支部長が三重県の訴訟担当の仕事をしておられ、様々なことを教えて頂きました。当時は、故吉住慶之助先生が

体の債権回収」という本も出版できました。生涯勉強と考えていますので、今後ともよろしくご指導下さい。

自分に合った生き方

昭和三九年法卒 下津 和文

昨秋、三重県の産業功労者表彰をほからずも受賞しましたが、その事について寄稿のご要請をいただきました。また、平成十五年には黄綬褒章受章と身に余る評価をしていただき恐縮しているところです。

この二つの受章の原点は、家業である醤油業界で、三重県醤油組合の理事長を長年勤め、組合事業を通じて多方面にわたり活動の場が与えられたことと、それを支えていただいた関係者のご指導とご支援の賜と認識しています。実は大学卒業後約十年間某石油会社に勤務し、その後家業を継いだのですが、帰って一年ほどで先代が他界したため、若いころから組合事業にも携わったことが、このような結果に結びついているものと思っております。

組合の理事長就任は平成元年ですが、丁度パブル景気が終わった頃で経済の転換期でありました。我々の組合も本業の他に養鶏業であるとか、更には南米のコロンビアでのカーネーションの生産等幅広く展開してありました。しかしながら、その後パブル経済は崩壊していくこととなり、組合の関連事業でも大きな痛手を受けました。そこで事業を幅広く展開するより、本業中心に戻り、健全でクリーンな経営を目指そうと考へ、方向転換をはかりました。幸いこの業界に入って日も浅く、古くからのしがらみも無かったので、果敢に経営の建て直しに邁進することが出来ました。こういった幸運にも恵まれ、その後の組合運営も健全経営により、余裕を持って業界の発展に寄与できたと思っております。

大学時代にある教授が、「一生で一度ホームランを打て」と言われた事が印象に残っています。果たして自分は今までにホームランを打てたのかと自問するときに、決して誇らしげに打ったとは言えません。かつてイチローが、「自

分はアメリカの球場で、この細い腕ではとてもホームランを打てるとは思いません。理想的なのは野手の間を抜いて二塁打や三塁打を増やしていくことです。」と言っていました。自分自身もこのように、自分の能力とか限界を知り、究極といふことより八十八パーセント位で満足するような生き方をしました。

事業においても、そのような考え方が功を奏することもあるのではと思っております。

我々を取り巻く環境も変化の激しい時代を迎えておりますが、自分に合った生き方や考え方で、人生は余裕を持って楽しく過ごしたいものです。

大学の思い出

昭和四六年法卒 宮武 新次郎

大学の思い出の最たるものの一つは、学生運動による大学の閉鎖の間のフリータイム。アルバイトや映画の日々のことだ。

一年ほど全く授業のないままで結局卒業には五年かかった。最初のアルバイトは、まだ何も無い大学一年の時、ここで初めてビールの味を覚えた。飲食業だったので、客に出した下がりなど勝手に飲んでいて、ある日の抜き打ち検査でほとんどの人は赤く顔に出してしまい即クビになってしまったが、私は酒との相性の良さに驚いたが、辞めるまでほどほどにやっていたことができた。本格的なバイトは、大学の閉鎖の時、アートコピーの豆とパン売りをした。昼まで主に仕入れの確認と販売準備などが私の担当だった。前日のパンなど余った時などよく東京都体育館のプールの監視員に持って行った。そのリーダーが大学の先輩というところもあり、いつもフリーパスで行っていた。プールは一年中やっていて、そこで私は初めて泳ぎも学んだ。また、夏休みには都営プールの監視を紹介してくれ、これが二つ目のアルバイトとなった。後に分かったが、リーダーや体育会系の長く来ている人は有名なホテルを担当し、都営プールなどは私たちが充てていたわけだが、私には結構

